

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372400069		
法人名	社会福祉法人 マキバの会		
事業所名	グループ・ホーム 杜の家 自遊舎		
所在地	岩手県和賀郡西和賀町沢内字貝沢4-98-3		
自己評価作成日	平成24年10月8日	評価結果市町村受理日	平成25年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&JigyosyoCd=0372400069-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成24年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「他者から必要とされることの喜び」を感じながら日常生活を送っていただくように実践している。開所当初からターミナルケアに取り組んでおり、その実績を生かし更なる工夫をし、本人・家族にとっての幸せとは何か追求していくように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、西和賀町の北側に位置し、鶯宿温泉から凡そ20km、秋田道湯田インターから約1時間、花巻市の中心地から豊沢ダム経由で約1時間の場所に立地されている。自然の恵みが豊富で景観も良く、旧貝沢小学校近辺にある。建物は、木造でホール天井が高く、暖房も、鋳物で作られた薪ストーブで昔の生活が思い出される。小屋には、薪がいっぱい積まれていた。ホームは、家庭生活の延長線上にあるとらえ住家も、暮らし方もそのまま延長させ、継続して頂くことを基本に進められている。ターミナルケアも開設以来、取り組んでおり、14名の方の最期を看取っている。また、葬儀も利用者の希望でホームで行われるなど、(職員は)ターミナルケアに、しっかり向き合っている。職員と利用者が家族のように長い時間寄り添い、思いの把握に努めながら利用者の支援に取り組んでいる。居室には、単筒、家族の写真、仏壇、人形などが持ち込まれていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	終末期をどう過ごすか、支援していけるかを念頭に入れ、それに伴いどう生きるかを基本に据えて、話し合いを実践につなげていく努力をしている。	事業所での生活は、家庭生活の延長と捉え、役割を担いあい、一緒に生活する仲間どうしが助けあえることを目指している。昨年度、職員と一緒に作成されたもので、玄関など見える場所に掲示し、毎日のケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人として受け入れてもらっている。	自治会に加入し、地域で行う敬老会や運動会、防災訓練等の他に、老人クラブの行事にも参加し、地域の人たちと一緒に楽しんでいる。事業所は、利用者の意向を受けて、関係先と連絡を取り、参加支援に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人を招き、介護教室を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では活発な意見が交わされ、情報の透明化により、地域の理解者が増え、積極的な意見を活かすことが出来ている。	地域代表者、行政関係者、利用者、利用者家族で構成し2ヶ月ごとに開いている。会議の始めに、ゲームを取り入れ、委員と利用者との関係に親近感を持たせる工夫もなされている。県から講師を招待しての研修も行き、会議の充実にも努めている。	会議の中に、ゲームやお茶会等を取り入れるなどの工夫がなされている。多くの利用者家族(委員)が、運営推進会議に参加して頂けるよう更に働きかけることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、ケア会議などの席で意見交換などを行い、機会ある毎に職員に訪問を願っている。	運営推進会議時や、毎月のケア会議に参加し、事業所の状況を伝え、指導等を頂いている。電話や訪問したりすることもあるが、家族との関わり方や支援を巡るのあり方について意見交換をし、よりよい関係づくりに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の戸締り以外は施錠をしておらず、車椅子は移動の手段として使用している。また、長く車椅子に座ることを避け、移動したい場所を選んでもらい、移乗支援をしている。	夜間の夜勤者1名になる時間は防犯上玄関への施錠を行なっている。車椅子で過ごしている方も長時間同じ姿勢にならないよう工夫している。マニュアルの内容の確認を所内で絶えず行なっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為に勉強会を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループ・ホーム 杜の家 自遊舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象者がいない。しかし、以前には取り組んだ経験がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時または改定時に説明を行っている。また、必要と思われる家族には、再度説明の機会を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート調査に基づき、展開している。	事業所への訪問があった際に、話し合いの場を設けている。年に一度、利用者家族に対して、アンケート調査を行い、意見の把握に努めている。事例として介護度が進むことにより居室の改装の要望が出され、実施している。	家族にも介護のあり方について希望、要望があると思われるが、(家族は事業所にお世話になっているということから遠慮している可能性もあるので、それを引き出す技術、スキルアップ等に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を取り入れて、施設内改装や職務体制などの改善をしている。	朝の引継ぎ会や、随時行われるミーティングにおいて、気付き等を話し合い、運営に反映させている。二人掛けのソファを購入したり、トイレへの手すりの取り付けや、食事の介助時の勤務体制の要望が出され、改善がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格、キャリアとやる気が給与に繋がるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修(全員参加)を月1回のペースで行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との意見交換、交換研修の機会がある。感想などを文章化して、共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築く大切な時期であり、言葉にならない要求も見逃さないよう努力をする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見に真摯に取り組む姿勢を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全体像を見ながら、ケースの持つ、一番のニーズにまずは向き合うことにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ること(役割)を見つけてあげることが職員の大切な仕事だと考えて、実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって、家族がいかに大切な存在であるかを伝える努力をいつもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参り、兄弟の家、友達の家など必要に応じて連れて行く。また、地域のお祭り、行事、友達が訪ねて来た時も大切な時間を支援する。	家族からの情報を受け、利用者とも相談をし、意向を確認しつつ、墓参りや、親戚の人、友達との面会に向けた支援に努めている。希望により、事業所側で対応することもある。利用者の理・美容は、職員が行い、利用者には喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれが居心地の良い場所を選べるように家具等の環境を設定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々に応じ、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉にならない思いを受け止める感性を持つべく、それを磨く努力をしている。また、施設内研修においてバリデーション実技をしている。	利用者の言葉や表情、日常の動き等からの把握に努めている。内部研修でこのことを取り上げ、受け止める感性づくりや管理者が講師になってバリデーション実技の習得に取り組んでいる。	下線部※)バリデーション…アメリカのソーシャルワーカーが開発した認知症の方々とのコミュニケーション術の1つ。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントには家族からよく話を聞き出す努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づきメモの中に記して、共有し、ケアに活かしていく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題の多い方については、包括ケア会議で問題提起をして、意見を参考にしている。	利用者を担当している職員がケア記録を取り、情報の共有に努めている。包括ケア会議に諮り、その意見を参考にすることもある。見直しは、原則としては6ヶ月ごとに行っている。ケアプランは、利用者家族に説明し、確認及びサインを頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、内容、必要に応じて様式を工夫し、観察をして統計を取り、必要があれば家族や他の機関へ情報を提供している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能とは言えないが、本人や家族の必要に応じて、できる限りの対応を心掛けている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループ・ホーム 杜の家 自遊舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内、地域内のイベントを把握して、本人が楽しめるものに参加できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談して、必要な医療が受けられるようにしている。	本人や、家族が希望する「かかりつけ医」となっており、殆どの方は、「沢内病院」としている。受診や通院は、家族が対応することとしているが、家族の都合によっては職員が対応している。精神科の病院は、盛岡地域（遠方）で、職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設以来、ターミナルケアに取り組んできた。職員は自分たちの行いに誇りを持つように理事会・運営推進会議などで共有している（理解者が増えている）。更に、デイルームを提供して葬儀も行った。	ターミナルケアは今年も行われており、開設以来14名の方がホームで看取られている。職員も利用者を最期までケアすることに努めている。訪問医療、訪問看護など「沢内病院」との連携を一層、密にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講師を迎えて、研修しスキルアップした。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方と一緒に避難訓練を行った。	マニュアルを作成し、年2回利用者と一緒に、消防団の協力の下に夜間を想定した訓練が行われている。事業所単独では4回実施している。地域の協力者としては区長や利用者および職員のご家族から協力をいただいている。スプリンクラーも整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し合いをし、研修もしている。損ねた時は注意するように心掛けている。また、職員も体験し、利用者の気持ちを感じるようにしている。	マニュアルを参考にしながら利用者の意向に寄り添ったケアに努めている。トイレ誘導やおむつ交換には、プライバシーを損ねない配慮がなされている。名前の呼び方では、女性は名前で、男性は苗字で呼ぶなど利用者の希望に応じた呼び方で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプランに盛り込んで、職員全員が周知に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞き出すようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる身だしなみを探して、やってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器にも工夫をしている。自分で食べる喜びを味わってもらっている。	豆をもぎ取るなどの下ごしらえや下げ膳、買い物、お茶汲み、テーブル拭きなどを職員と一緒にやっている。利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事出来るような雰囲気作りにも取り組んでいる。季節の料理を積極的にメニューに加えるようにし、食事を楽しむ工夫をしている。時々、外食に出かけ、楽しみも持てるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員全員が理解し、同じ支援ができるように図を描いたり、観察表を作って支援に落ち度がないように気を付けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ずつケアの仕方が違っているが、必要に応じて変化させる。口腔ケアの研修にも参加して、新しい技術を取り入れている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループ・ホーム 杜の家 自遊舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けで排泄リズムを作り、今年度は2名がトイレでの排泄が可能になった。	自尊心に配慮し、排泄チェック表を活用し、時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄出来る利用者が増加している。オムツ利用者が2名、夜間にポータブル利用者が3名いる。声かけと誘導によりトイレでの排泄や自立に向けた支援に努めている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれに合った予防策を講じ、なるべく薬に頼らないようにしてる。排便観察表のチェックもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	これまでシャワー浴だった方も、浴槽とチェアへの改装により全員が湯船でゆったり入浴できるようになった。(2名)	入浴日は、一日おきであるが、入浴したい日や入浴したい時間に合わせて、入浴されている。浴槽を木材で作り直し、また、チェアも利用者の身体機能にあわせて改良し、ゆったりと入浴されている。嫌がるときは、清拭や介護者を変えるなどして入浴に導いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の時間やパターンは本人が自由に決めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を把握する担当者がいるが、用法については全員が理解し症状と薬の関係性については表にまとめ、医師や薬剤師に連絡している。また、薬についての勉強会も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の話の中から、楽しみや暮らしぶりの様子を聞きだし、今の生活に活かす努力をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループ・ホーム 杜の家 自遊舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添うように支援している。また、言葉にできない方も、その表情から読み取り支援をしている。	利用者の希望や習慣に合わせて散歩をしたり、菜園で野菜の手入れをしたり、バスでドライブに出かけたり、買い物に出かけるなど、戸外に出かけている。また、地域のイベント、祭りなどにも積極的に参加するようにし、住民との交流を図るようにしている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループ・ホーム 杜の家 自遊舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持の能力がある方は、本人が管理している。本人の考えで使うことができる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けるよう依頼があった時は応じていて、家族・本人の希望を大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の気付きを大切にして、その都度必要と思われることを話し合い、実行している。今年度はソファを備え付け、ゆったりする空間を設けた。	木造で天井が高く、窓も大きく、景色はどの部屋からも眺められ、四季の変化を感じながら、ゆったりとした気分で生活されている。暖房は、昔馴染みの雰囲気を感じ出すよう、薪ストーブで、テレビは別室で観ることが出来るようにしている。手すりも設置され、段差もなく、安全面にも配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いにくつろいでいるようである。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所当初に家族に理解してもらい、持ち込むように協力してもらっている。慣れるにしたがって気持ちが薄れがちになるが、いつもこれでいいだろうか、という見直しを行う努力をしている。また、担当を変えて、新鮮な目で見直す努力をしている。	居室には、テレビ、筆筒、炬燵、家族の写真、仏壇などが持ち込まれ、利用者がゆったりとした気分で暮らすことが出来るように工夫されている。仏壇には姉の位牌を置かれている方、大きな写真が飾られている方、人形を大切に生活している利用者など思い思いの居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって何が必要か、不必要か話し合うことを大切に、個別の工夫をしていくように心掛けている。		